

義肢装具士: _____

会社: _____

顧客番号: _____

日付: _____

患者の個人データは、注文処理と統計学的評価のために保管・使用されますのでご了承ください。装具の荷重容量の計算は、ここに記入されたデータに関連付けて行われます。このデータは、装具を利用しているうちに変化することがあります。この装具療法シートに記入する際は、今後考えられる変化を考慮に入れてください(例: 体重変化、筋肉強度の成長や変化)。

患者データ

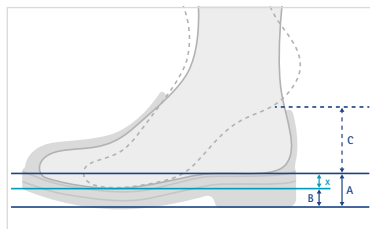
患者氏名	生まれた年	体重	脚
		kg	左脚 右脚
データプライバシーの目的のため、下の名の最初の2文字と、名字の最初の2文字のみを記入してください。	性別 女性 男性	身長 cm	左右の足で以下の点が異なっている場合は、装具療法シートを2枚使用してください。

疾患と障害

一般用装具療法シートは、ダウンロードセクションで専用の装具療法シートがない疾患や障害の場合に限り、使用してください。

靴の測定

靴サイズ (EU) (足の長さ + 1.5cm) x 1.5



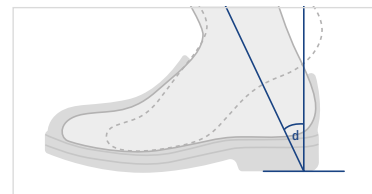
踵高さ(A) mm

踵と爪先の高低差 (x = A - B) mm

靴底厚さ(B) mm

高さ補償(C) mm

上側足関節の運動範囲



背側

底側

膝レベルの不安定性/変形

生理学的位置

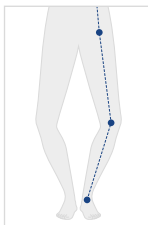
内反変形

最大

装具装着時の推定

○

○



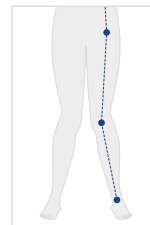
外反変形

最大

装具装着時の推定

○

○



生理学的運動範囲

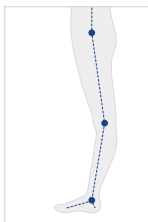
過伸展

最大

装具装着時の推定

○

○



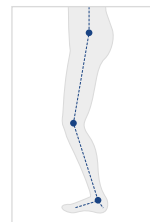
伸展の制限

最大伸展

装具装着時の推定

○

○



AFO/KAFO/KO

www.orthosis-configurator.com/ja

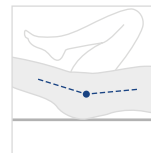
股関節レベルの不安定性/運動制限

生理学的運動範囲

伸展の制限

最大伸展

○



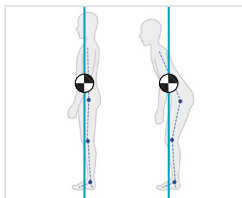
検診時に立つことができるか (補助が必要な場合も含む)

検診は患者が (少なくとも部分的に) 立った状態で行うことができる。 はい いいえ

鉛直線の経路 (身体の重心から)

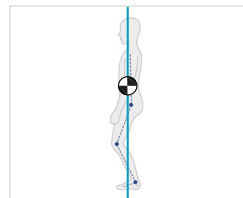
鉛直線が膝の回旋点を通る、または膝の回旋点より前を通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあります。これは例えば、身体を前に曲げることで補償することができます、また装具で補正することが可能です。



鉛直線が膝の回旋点より後ろを通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあり、装具で補償や補正することはできません。



筋肉強度(Jandaによる)

0 (ゼロ) 1 (わずか) 2 (不良) 3 (可) 4 (良) 5 (正常)

股関節屈曲

股関節伸展

0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5

膝関節伸展

膝関節屈曲

0 1 2 3 4 5

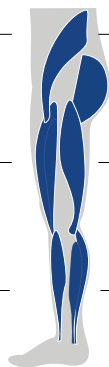
0 1 2 3 4 5

背屈

底屈

0 1 2 3 4 5

0 1 2 3 4 5



活動レベル



1. 屋内歩行



2. ある程度の屋外歩行

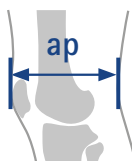


3. 無制限の屋外歩行



4. 特に高強度の無制限屋外歩行

ap測定値(KAFOまたはKOの膝の機械的回旋点)



mm

患者との面談中のメモ(例えば以前の治療など)
